



SON 埼玉「新型コロナ感染予防のためのガイドライン」

1. はじめに

本ガイドラインは、SON 埼玉の各スポーツプログラム及び各特別委員会のイベント・会議等の会合を開催する際の、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を整理したものである。

作成にあたっては、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（以下「対処方針」）を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」

（以下「提言」）及び、SO 日本スポーツプログラム委員会&スポーツウェルネスチーム作成の「スポーツプログラム再開における留意点」、SON神奈川「新型コロナ感染予防のためのガイドライン」などを参考にした。

2. 感染拡大予防のための基本的な考え方

プログラムや会合等の開催方式については、感染の状況および参加者の属性ならびに人数等を勘案し、対面リアル型会合の他にオンライン型会合も活用する。

（1）プログラム・会合等の開催の判断について

ア、使用する施設が開催を許可しない場合は開催しない。

イ、開催可能な施設で開催する場合は、施設の開催ガイドラインを最低限順守するとともに、適切な感染防止策を整える。リスクへの対応が整わない場合は中止または延期する。

・これらはいくまでも目安であり、会合等の形態や場所によってリスクが異なることには十分に留意する。

・密閉された空間において大声での発声、歌唱や声援、または近接した距離での会話等が想定されるプ

ログラムや会合等に関しては、（2）に記載する上限人数や収容率の目安に関わらず、開催にあたってより慎重に検討する。

（2）プログラム・会合等の規模の目安

・屋内：参加人数は約10名以内、かつ収容定員の半分以下（上限人数と収容率のどちらか小さい方とする）

- ・屋外：参加人数は約10名の小グループ(サブグループ)で開催、かつ人と人との間隔を十分に確保できること(できるだけ2m以上)
- ・その他、開催会場のガイドライン(体育館等の最大人数等)に沿った人数制限がある場合にはそれに従う。

(3) プログラム・会合等の開催にあたって

プログラムや会合等の主催者および運営に従事する者(以下「主催者等」という。)は、その規模や内容等の形態を十分に踏まえ、会場およびその周辺地域において、アスリート、ボランティア、ファミリー等(以下「参加者等」という。)への新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、最大限の対策を講じる。特に

- ①密閉空間(換気の悪い密閉空間)、
- ②密集場所(多くの人が密集している)、
- ③密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)という3つの条件(いわゆる「三つの密」)のある場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられ、こうした環境の発生を極力防止するなど、すべての主体が相互に感染回避に徹底して取り組む。

(4) 参加者等のプログラムや会合等への参加制限について

「4. (1) イ、参加者等(ア)健康状況の確認」に記載する状態に一つでも当てはまる参加者等については、プログラムや会合等の参加を控えてもらい、主催者等は、集合以外で参加できる方法(オンライン研修)や、その資料を後日提供するなどの代替措置がとれるよう努める。

3. リスク評価

主催者等は、新型コロナウイルスの主な感染経路である①接触感染、②飛沫感染のそれぞれについて、主催者等や参加者等の動線や接触等を考慮したリスク評価を行い、そのリスクに応じた対策を検討する。

また、プログラムや会合等によっては、県境をまたいだ移動(東京、静岡等)が想定されることもあり、地域における感染状況のリスク評価も必要であることに留意する。

① 接触感染のリスク評価

他者と共有する物品やドアノブなど手が触れる場所と頻度を特定する。

高頻度接触部位（テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、電気のスイッチ、電話、マイク、キーボード、PC のマウス、タブレット、タッチパネル、レジ、蛇口、手すり、エレベーターのボタンなど）には特に注意する。

② 飛沫感染のリスク評価

会場における換気の状態を考慮しつつ、人と人との距離がどの程度維持できるかや、大声での発声、歌唱や声援、または近接した距離での会話等が想定されるプログラムや会合等であるかなどを評価する。

③ 地域における感染状況のリスク評価

地域における感染拡大の可能性が報告された場合の対応について検討する。
感染拡大リスクが残る場合には、対応を強化することが必要となる可能性がある。

4. SON埼玉 新型コロナ感染症 初動対応フロー

プログラム活動前に 全員健康チェックを行ない「新型コロナ感染拡大防止チェックリスト」に記入をする



(1) 感染者確認時の連絡

事象	感染者	SON埼玉	保険センター
発熱者		自宅待機 自粛	
陽性確定	SON 埼玉事務局へ 連絡 今川敦美 080-5184-5020	事務局より連絡 ①SO 日本へ ②当該プログラムファミリー代表へ ③当該プログラムヘッドコーチへ ※個人情報は十分に配慮の上連絡する	医療機関からの報告を受け 当事者の調査
当事者の参加プログラム活動停止	事務局総本部内のみで感染者の情報の保護を徹底	当事者より 各地区の保健センター機関に連絡 SON 埼玉よりプログラム内接触者の提出 感染者の症状 咳・発熱が出た2日前から最後接触をした日までの接触者に当てはまるか確認 地元保健センターに報告してもらう	

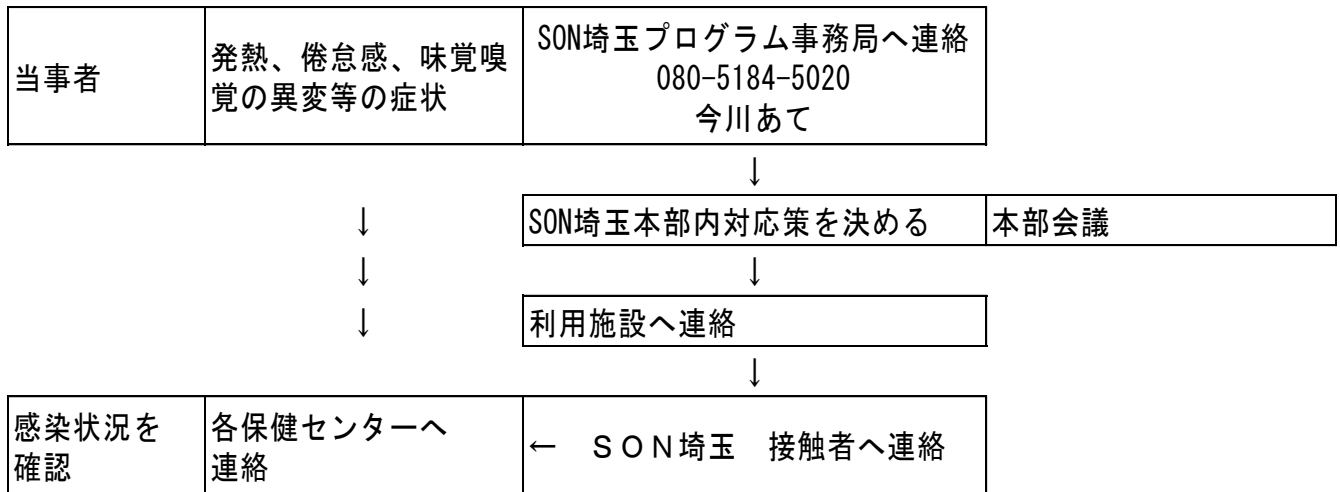
(2) 対応

接触者のリスト	濃厚接触者	室内での競技の場合 = 同時間の人 マスクの利用の確認	14日間の 健康観察 自宅待機 自粛
		室外競技の場合 = 1m以内15分以上 対面の人 マスクの利用の確認	
	濃厚接触者対象外	保健所の調査による	↓
		短時間で同じ空間にいたが接触がない方 マスクの利用の確認	↓
出席簿、健康チェックの確認と提出		対応策を保健所と相談	事務局へ 報告をする
厚生労働省接触確認アプリ (COCOA)の活用をお願いする			

(3) 利用施設の対応

施設	プログラム利用施設	利用施設への連絡
	プログラム練習時の消毒の 対応を確認 実行	毎回練習開始時 終了時の消毒等施設の マニュアルに沿って対応
消毒	施設の消毒	公共機関利用の場合、規約に沿って対応
	共用物の消毒	エタノール 次亜塩素酸ナトリウム
		消毒用アルコールでの消毒
	準備するもの	・消毒薬 ・ペーパータオル
		・ビニール袋 ・ビニール手袋
		・薬用石けん
手指消毒	消毒薬準備	施設内入場の際は消毒
		練習場にも消毒薬にてまめに消毒
		終了後は、薬用石けんにて手洗い

(4) 連絡フロー (症状発症の出る2日前までにプログラムに参加した場合)



(5) 濃厚接触者がいた場合3週間プログラムを停止すること。
当事者と関連性がない場合はプログラム再開できるかをSON埼玉事務局が判断する。

(6) 感染者の公表
当事者が限定されないように、SON埼玉事務局にて個人情報管理する。
個人情報に配慮して各コーチから参加者に状況を報告する。

(7) 注意勧告
感染しないようにまた、拡大しないようにプログラム活動の安全を一番に考慮して、消毒とソーシャルディスタンス、マスクの着用を厳守すること。

(8) 活動前の心構え

- ①名簿、健康チェックリスト記入の徹底
- ② プログラム前に検温を各自実施、37.5度以上の発熱のある参加者は不参加とする
- ③ マスク着用、マスク以外でもフェイスシールドなどの飛沫対策の可能なものを使用する
- ④ 入場前の消毒、手指のこまめな消毒と手洗いをする
- ⑤ プログラムの前後で道具・防具の消毒を利用施設内で行う
- ⑥ 常に利用する物は掃除を行い、消毒をしておく
- ⑦ ソーシャルディスタンスをとり、人と人との距離を保つ
- ⑧ 大声では話さない、至近距離でも話さない
- ⑨ コーチボランティアはマスクやフェイスシールド、手袋等で飛沫予防をする
- ⑩ こまめな消毒を行なう
- ⑪ 顔や口を手で触らない
- ⑫利用施設を出る際は 手指消毒や手洗いを行なってから帰宅する